

# 市民のくらしを第一に！開発優先の神戸市予算に反対

高橋が所属する「つなぐ神戸市議員団」は、2021年度神戸市予算関連47議案のうち、一般会計を含む5議案については反対しました。理由は以下の通りです。



4月4日「つなぐ神戸市議員団」街頭市政報告会（三宮）

- ① 厳しい財政や新型コロナによる経済情勢の変化にもかかわらず **三宮再整備**や**須磨水族園再整備**を見直そうとしない。
- ② **国民健康保険会計**に一般会計から**法定外繰入**(※)をせず、国保料や介護保険料を引き上げる。
- ③ **借り上げ住宅**入居者や**須磨多間線沿線**住民との対話が不十分。
- ④ **水道料金関係業務の民間委託**などで住民サービスを低下させる。

(※)法定外繰入とは…国の財政支援なく神戸市独自に一般会計から国保会計に繰り入れる予算のこと。他都市では低所得者の保険料減免や子ども医療費支援の目的で繰り入れています。

## 三宮再整備計画の見直しを求めました



三宮クロススクエアのイメージ (神戸市ウェブサイトより)

高橋の代表質疑と香川市議の分科会質疑で「三宮再整備がポストコロナのまちづくりの方向性に合致しているのか?」「厳しい財政事情の中で見直す必要があるのではないか?」とたどりました。副市長は「経済効果は30年後の長期的な効果を推計したので新型コロナ感染拡大が大きく影響することはない」と答弁。しかし経済効果の見通しが怪しいことは、JRが「投資環境を見極めるため」と駅ビル改築を遅らせていることから明らかです。

市長は「三宮クロススクエアは人にやさしいまちづくりなので(ポストコロナに)逆行しない」と答弁。6つの駅とバスターミナルをつないで利用しやすくすることは必要だと思いますが、巨額の税金を投入して三ノ宮駅前に歩行者空間を作る必要が本当にあるのでしょうか?ポストコロナを見すえた議論が必要です。

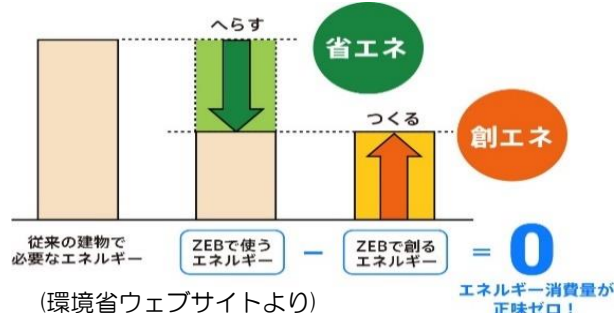
## 地球温暖化対策

### 部門別の目標明示「国の動向を踏まえて行う」と約束

高橋の代表質疑とあわはら市議の分科会質疑で、2050年CO2実質ゼロの具体策を要求しました。

- ① 家庭・産業・業務・運輸・廃棄物などの部門別に削減目標を出すこと。これは、民間企業の他都市移転などに左右されずに2050年CO2実質ゼロを実現するために必要です。副市長は「国の温暖化対策が次々に出ているのでその動向を見て検討したい」と約束しました。
- ② 市庁舎2号館の新築にあたりネットゼロエネルギービル(省エネ50%太陽光など再生可能エネルギーの創エネ50%)を求めました。副市長は

ネットゼロエネルギービル(ZEB)の説明



「初期コストがかかるものは難しいが可能性を検討したい」と答えました。さらにあわはら市議が「市役所全体のエネルギー調達を再エネ100%にできないか?」と要求し、環境局長は「現状が20%なので何とか市内の周知を深めたい」と答弁しました。



2021.7.29. 9:15PM\*

# 子どもの人権を求め、子どもたちといっしょに取り組みました



## 冷たいデリバリーの中学校給食がやっと改善されます

全会派が要求した中学校給食の改善。やっと全員喫食をめざすことが決まり、今年秋までに「全員喫食制に向けた基本方針」が決まります。高橋は、実施方法の改善はもちろん、アレルギー体質の子どもさんへの対応や有機野菜など安全な食材の確保を求めています。

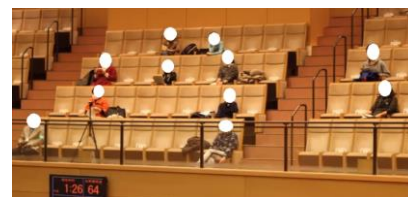
## 全小学校区に「子どもの居場所」を作りたい

子どもに食事を提供したり学習支援する「子ども食堂」。市内の小中学校区の4割で実施されていますが、神戸市は2年かけて全小学校区に増やす方針です。高橋は、フリースクールなど多様な団体が実施できるように、時間など柔軟に対応することを確認しました。さらに、コロナ禍で広がった「オンライン学習支援」が、参加対象を貧困家庭に限定せず、不登校や長期入院の子どもも対象にしたことを評価し、リアルな学習支援事業や「現代の寺子屋」モデル事業も、対象を拡げるように求めています。



神戸市ウェブサイトより

## 不登校の子どもたちへの支援が前進しました



議会傍聴に訪れた子どもたち (プライバシー保護のため画像処理をしています)

高橋が質疑で求めて確認したこと①不登校の子どもたちの状況を知ってもらうために、市長と教育長がフリースクールを視察。②学校関係者や保護者にフリースクールの教育内容を知ってもらうために、教育委員会が、学校関係者や保護者にフリースクールの内容を知ってもらうための講演会を開催。③フリースクールに子どもを通わせる経済的支援については、教材費支援を国に働きかける。④不登校の子どもたちが通う「適応指導教室」の名称変更。

## こども家庭センター 一時保護所での人権侵害を告発



一時保護所での体験を語る女子中学生

「刑務所のようなあの生活ルールを変えてほしい」こんな女子中学生の切実な声を聞いたことをきっかけに、高橋は委員会などでこども家庭局に改善を求めました。一時保護所は、虐待などをきっかけに子どもが1か月前後入所する施設です。「私服私物の持ち込み禁止で衣類の貸与は2組だけ」「ルールを破れば何日も会話禁止や個室行き」こんな生活ルールの是正を求めますが、当局は正当化するばかり。その後、4月6日に女子中学生と共に記者会見を行った結果、当局も「当事者からの虐待との訴えについては重く受け止める」としてルール見直しも検討することを明らかにしました。つなぐ神戸市議員団として「1年後に移転する節目だからこそ、弁護士や研究者を入れて一時保護所のあり方を検討する委員会を」と求めています。

## 朝鮮学校も幼保無償化の対象になりました

神戸市は国が新設した「幼児教育類似施設の利用者支援制度」の実施を決めました。朝鮮学校など外国人学校幼稚園部利用者に月額2万円まで補助します。さらに、つなぐ会派のあわはら市議は、朝鮮学校が朝鮮半島にゆかりのある人に入学を限定していることを理由にして神戸市が補助金を削減している規定を改めるよう要求しました。



朝鮮学校の幼保無償化を求める集会

## 高橋ひでのり プロフィール



●1957年生まれ。  
●1984年京都大学を卒業後、神戸市役所に就職。生活保護ケースワーカーとして勤務。

- 1995年阪神淡路大震災時、避難者の生活保護受給のため奮闘。垂水区役所などで国保年金業務を担当。
- 勤務と並行し一市民として平和・脱原発・差別撤廃などの市民運動に参加。
- 2011年 精神保健福祉士の資格を取り、精神障害者の成年後見ボランティアに参加。
- 2017年3月、59歳で退職。
- 2019年4月神戸市議員選挙(垂水区)に立候補し、4162票で初当選。
- つなぐ神戸市議員団の政調会長。福祉環境委員会委員。
- 趣味 ゴスペル・登山

Facebook 発信中

